



完全復興を成し遂げるため 全力を尽くすことが使命

益城町長 西村博則

新しい年を迎えるにあたり、町民の皆様にごあいさつを申し上げます。

益城町に甚大な被害をもたらした熊本地震の発生から、三度目の新年となりました。改めまして、地震によりお亡くなりになりました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されましたすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、平成30年を振り返りますと、西日本を襲った平成30年7月豪雨や熊本地震以来の最大震度7を記録した北海道胆振東部地震など、列島各地が過去にない大災害に見舞われた1年でした。こうした災害が起こるたびに、町では職員を派遣するなど、熊本地震の教訓を伝えてまいりました。今後も、大災害を経験した町としての役割を果たすとともに、さまざまな大規模災害に対する備えや防災訓練等の実施により、災害に強いまちを実現し、ご支援をいただきました全国の皆様に恩返しをしていきたいと思っております。

益城町におきましては、未だ仮設住宅等に約4千人を超える方々が不自由な生活をされております。こうした方々に一日でも早く安らぎのある日常生活を取り戻していただけるよう、被災された皆様方の生活再建を第一に、災害公営住宅の建設や宅地耐震化復旧工事などのほか、生活再建、住宅再建に係る相談窓口の設置などの支援に取り組んでまいりました。

また、災害公営住宅につきましては、本年から入居が始まりますが、入居される皆様、新しい生活環境のなかで、地域でのコミュニケーションを育みながら生きがいをもって暮らしていけるようさまざまな支援策を講じるとともに、引き続き仮設住宅に入居されている皆様方に対しても、見守りの支援等に力を注いでまいります。

今年、復興計画に掲げた3か年の復旧期から、再生期へと移行する年でもあります。給食センターや陸上競技場、四賢婦人記念館が今春には完成します。さらにさまざまな施設等が完成へと向かっております。復旧事業や新たなまちづくりのための復興事業を進める中で、町民の皆様方には多大なご苦労や不自由をおかけすることとなりますが、丁寧かつ円滑な事業推進に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さらには、復旧・復興事業完成後を見据えた、豊かな町を創造するため、町全体の「にぎわいづくり」を強力に押し進めなければなりません。まずは土地区画整理事業が進められている木山区の「にぎわいづくり」を牽引役

とし、地域住民の皆様、関係機関などと知恵を出し合い、力を合わせながら、町全体の活力につなげていきたいと思っております。

時が経過し、そして新たな災害が発生するごとに、熊本地震という出来事、人々の記憶から遠ざかっていくとともに、国の支援も次第に届かなくなってしまう。復興までの道のりは険しさを増すことが予想されますが、完全復興を成し遂げるために全力を尽くすことが私の使命であると、改めて深く心に刻んでおります。

復興の主役は町民の皆様です。これからも皆様のお知恵とお力添えをいただきながら、「オールましき」の強い決意のもと、町議会をはじめ関係団体等と一体となり、復旧・復興に総力を挙げて取り組んでまいりますので、引き続き温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。結びになりますが、平成という一時代を終え、新しい時代の幕開けとなる2019年が、町民の皆様にとりまして笑顔に満ちた新たな希望への第一歩となる年になりますよう心よりお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

